



「待ったなし」 災害時のトイレ問題！



湖南省公明党議員団 ● 細川 ゆかり 議員

災害時のトイレ問題について

問 避難所におけるトイレの整備状況は。

答 指定避難所となる市内小中学校13校に、それぞれ個室トイレとなる防災倉庫を設置。その中に洋式マンホールトイレ2基(テント付)簡易トイレ8個トイレ処理セット600回分車いす対応トイレテント1基を配備。集中備蓄として東庁舎等にも備蓄していますが、充分ではないため、民間企業等と災害応援協定を締結しています。

問 マンホールトイレの配管の保守点検は。

答 本来、下に配管がなされ、保守点検を行うべきですが、本市では、配管はしていません。しかし、機能は有しているため、災害時には使用できません。

問 マンホールトイレの使用を前提に庁舎や

小中学校だけでも配管整備を進めるべきでは。

答 今後、各小学校の下水道管路の整備を順次進めていきます。

問 自宅避難時のトイレ対策は。

答 成人が1日にトイレを使用する回数が5〜7回との想定で4人家族1週間分として最低でも140回分の備蓄が必要です。備蓄の重要性を広報こなんや市HPのほか防災研修・防災出前講座等において周知啓発を図ります。

問 し尿処理対策は。

答 紙おむつと同様に燃えるゴミとしてゴミステーションに出して下さい。

問 トイレレトラの導入は。

答 有効性は認識しており、「国スポ・障スポ」開催時に試験的な導入が可能か検討します。

湖南省の希望ある未来を見据えた計画作成を



湖南省公明党議員団 ● 副田 悦子 議員

問 今年作成される『子ども計画』において特に手薄と言える「若者施策」最重要事項と言える「子ども若者の社会参画・意見反映」についての見解は

答 全ての子ども若者の健やかな育ちを保障し、湖南省のこども若者がウェルビーイングを実現し「ずっとここに暮らしたい」と思えるようあらゆる施策が子ども若者育成支援の視点で展開できるようにしてまいります。また子ども施策に限らずすべての施策において子ども若者が意見を述べられる機会を保障することは重要であり施策へ生かしていく仕組みが必要です。物事を作っていくプロセスの最初の段階から参画機会を保障するよう位置づけてまいります。

問 不登校について

答 どの子にとっても

魅力あるよりよい学校作り安心できる環境作りが全ての根底にあると考え、重大な状況になる前に丁寧な初期対応を徹底すること・組織対応をすることを年度初めに確認しています。また、保護者や本人の思いを丁寧に聞き取り専門的な関係機関と連携し当事者の思いに寄り添った支援を進めるようにしています。ケースによっては障がい福祉課も加わり支援の方策について検討しています。公的機関だけでなく民間機関との連携も進めてまいります。高校生については、中学校で支援を要した生徒は個別支援移行計画を作成し、引き継ぎを行っていますし、高校訪問等から支援につなげることも可能です。発達支援室での相談も行っています。